

地球環境にとって『ごみ』とは何か？

2011年11月12日(土)

司会・文責：堀越

1. 概要；

- ・参加者14名を迎えて、ごみについて考え、議論した。人類の視点からごみを議論し、さらに、宇宙人から見た地球環境を議論した。また、人類が自然の一部なのかどうかという問題も提起され、議論した。

2. 議論；

☆ 「ごみ」について (1) 人間視点から「ごみ」の定義とは何か、(2) 経済合理性を度外視すれば「ごみ」はなくせるのか、(3) 宇宙人から見て「ごみ」とは何か、(4) 人間は自然の一部かどうか？という4つの視点から考え、議論した；

☆ 思考実験についての前提について

徹底して哲学的に疑い始めると、例えば“こうもりの視点から考える思考実験”の例では、こうもりがどのような思考方法や感情特性を持つのが理解・共有できないと、どうしてもこうもりになったつもりの人間の思考に留まってしまうはず。この回ではそこを了解し、とにかく思考実験を進めた。

(1) 人間視点から「ごみ」の定義とは何か？

- ・辞書は“役に立たなくなった不要なものをいう。自然物、たとえば路傍の石などは、ごみとはされない。誰かが何らかの理由で一度は所有し、その後価値を失った物”という。つまり、一度は所有され、その後不要となって廃棄されたものがごみ。
- ・ごみとなるかならないかは、断捨離の専門家によれば、そのモノに「ときめき」を感じるかどうかで判断せよと言っている。このときめきが判断ポイントではないか。
- ・ごみとなるかならないかは、その人がそのモノに有用性を見出せるかどうかである。「～にとって」という視点が欠かせないのではないか。

(2) [思考実験] 日本国の大統領となり何でもできる強大な権力を持たせ、経済合理性を度外視すれば「ごみ」はなくせるのか？

- ・現実的には経済合理性(費用回収)が問題になるが、それを度外視すれば、原理的、理論的には、一度製造したモノ ($A+B \rightarrow C$) を逆反応化して元に戻す ($C \rightarrow A+B$) ことができるはずである。
- ・エネルギー保存則から、逆反応を起こすには、莫大なエネルギーが必要となる場合がある。従って現実的に全ての製造物を元に戻すことはできないのではないか。
- ・仮に経済合理性を度外視できても、人類がモノを製造する際には膨大な種類の副生成物があるはずで、それら全てに逆反応を起こさせることができるのか。

(3) [思考実験] 宇宙人から見て「ごみ」とは何か？

宇宙人(例；ウルトラマン～寿命が非常に大きく万年スケールだとする)になって、宇宙から地球を見てみたら、何がごみとして見えるのか？

- ・前提条件として、地球にたまたま通りかかった宇宙人であり、そこに侵略の意図はなく、ただ観光の意図から、地球に興味を持って見ているとする。
- ・「人間＝ごみ」という視点もあるが、それは、そもそも人間を自然から切り離して考えており、人間の視点を離れ切れていないのではないか。
- ・やはり「～にとって」という視点が欠かせなく、その宇宙人がどういう判断の基準、意図を持ち、何にときめきを感じ、何を不要と思うかが分からないとごみとなるものが考えられないのではないか。

(4) 人間は自然の一部かどうか？

人間は、自然の一部なのか、それとも自然とは異なる存在なのか。

- ・数万年前にいたとされる原人の時代であれば、自然の一部と言えるかもしれないが、現代の人類は明らかに自然の領域からはみだした行動、存在となっているのではないか。
- ・なぜ、何によって、人間だけが自然からは異なる存在となったのか。人間には、自由意思や言語があるからではないか。
- ・宇宙人として数万年、数十万年のスケールで見れば、人間もあくまで自然の一部であり、一時的に自然大量発生した昆虫と同じで、いずれは自滅する種族と捉えられるかもしれない。

3. まとめ；

- ・宇宙人になる思考実験は難しかった。宇宙人の前提をもう少し明らかにすることも考えたが、前提条件を増やすことで参加者の思考の範囲を狭めることを恐れ、あえて前提を排除した結果であった。後半で、人間が自然の一部なのかどうか？という新しい視点も提起された。また取り上げてみたい課題である。
- ・人工と自然の境界はあるのか。あるとすればそれはどこか。この問題が出発点となり、人工の象徴である「ごみ」を取り上げ、考えてみた。今後も異なるテーマで取り上げてみたい問題である。

以上